

釜川 (昭和49年)

市の中心部を流れる釜川の今昔。写真は、本町の「真光寺橋」から泉町の「二里山橋」に向けて撮影されたもの。

古くから市民に親しまれてきた釜川は、昭和40年代の中ごろから、雷や台風などの大雨のたびに氾濫を繰り返し、下流の市街地を中心に度重なる被害をもたらしました。

市では、昭和49年度から、本格改修に着手し、19年の歳月をかけて、全国初の二層構造河川として整備しました。

現在は、樹木や自然石を配置し、水に親しめるせせらぎ空間になっています。



その魅力を語ります。

練習中には率先して周りの人にあいさつをし、ごみ拾いをして練習場所をきれいに使うなど「スラックラインを広めるために自分ができることがあればやっていきたい」と話します。自身の成長だけでなく、スラックラインの普及に夢を抱く須藤さんに注目です。

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

スラックラインの楽しさを広めたい
世界ランク1位の女子高校生

作新学院高等学校 須藤 美青さん

「自分の結果も大切ですが、それ以上にもっとスラックラインの楽しさを伝えて仲間を増やしていきたいです」と話す須藤さん。現在、WSFed（世界スラックライン連盟）の女子世界ランキング1位で、6月にドイツで開催された世界大会でも準優勝するなど、若くして日本を代表する活躍をしています。

スラックラインとは、2点間に張り渡したラインと呼ばれるベルトの上を渡るスポーツで、須藤さんは、さまざまな技を出し合うトリックラインに主に取り組んでいます。「お互いの技をたえ合う雰囲気の中で、上達できるんです」とその魅力を語ります。

「スラックラインをもっと知ってほしい」と話す背景には、日本ではまだ知名度が低いスポーツゆえの苦労があります。小学5年生からスラックラインを始め、5年のキャリアを積んでいる須藤さんですが、練習場所と練習相手を求め、毎月県外へ遠征しているのが現状です。

